

たまねぎレポート【第423号】



令和5年1月27日

阪南青果株式会社

社内報

12月(令和4年)の天候は、気温は東・西日本で低かった。降水量は北・東日本の日本海側と沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は北日本の日本海側と沖縄・奄美でかなり少なかった。今月の気温は平年に比べ高い日が多く、降水量は少ない傾向にあったが、24日以来大寒波の到来で、日本列島は豪風雪と低温に見舞われている。気象庁の2～4月の予報では、この期間の平均気温は、北・東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並みまたは少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同

様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の12月の野菜の販売量は、233,588トン前年比103%(前月比107%)平均単価はkg ¥221前年比98%(前月比102%)。市場別には大きなバラツキはなく、総じて前年比入荷増の単価安となっている(福岡市場だけは入荷増の単価高となっている)。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比108%、平均単価はkg ¥179前年比93%。東京市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥238前年比99%。名古屋市場の販売量は前年比108%、平均単価はkg ¥203前年比93%。大阪本場の販売量は前年比104%、平均単価はkg ¥221前年比97%。福岡市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥183前年比101%となっている。

建値市場の12月の玉葱の販売量は29,173トンで前年比118%、(前月比111%)、平均単価はkg ¥100前年比62%(前月比100%)。殆どは北海物で、府県物・輸入物が大幅減となった。平均単価は総体的には前年比62%

の大幅安だが前月比100%で価格を維持した。市場別では、札幌市場の販売量は4,580トン前年比120%、平均単価はkg ¥85前年比68%。東京市場の販売量は9,500トン前年比106%、平均単価はkg ¥108前年比59%。名古屋市場の販売量は8,727トン前年比134%、平均単価はkg ¥93前年比62%。大阪本場の販売量は4,308トン前年比120%、平均単価はkg ¥108前年比66%。福岡市場の販売量は2,058トン前年比108%、平均単価はkg ¥110前年比65%となっている。

日本農業新聞社による主要7地区における、卸の代表7社が販売した12月の主要野菜14品目の販売量の集計値と、平均単価は次の通りである。総販売量は105,362トン前年比6%増、平年(過去5年平均値)比3%増。平均単価はkg ¥125前年比6%安、平年比も6%安となっている。販売量が前年比増の品目は、タマネギが17%増、ジャガイモ・ブロッコリーが14%増、ダイコンが10%増など11品目。販売量が前年比減の品目は、トマトが17%減、キュウリが14%減、ハクサイが2%減の3品目。前年比高となった品目はキュウリがkg ¥452で50%高、ダイコンがkg ¥69で30%高、ピーマンがkg ¥439で37%高、ニンジンがkg ¥97で21%高など7品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg ¥86で前年比45%安、タマネギがkg ¥86で36%安、ナスがkg ¥369で10%安、トマトがkg ¥353で9%安、ブロッコリーがkg ¥274で9%安など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の12月の野菜の入荷量は、125,446トン前年比102%(前月比109%)。平均単価はkg ¥238前年比99%(前月比104%)で、旬別では上旬が¥200、中旬が¥232、下旬が¥287でジリ高市況となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比116%、ホウレンソウが108%、タマネギが106%、ネギとレタスが106%などの8品

目。入荷が前年比減の品目は、キュウリが前年比87%、ナマシイタケが88%、ピーマンが94%、ナスとキャベツが85%など7品目。価格が前年比高の品目は、キュウリがkg¥496で前年比146%、;ピーマンがkg¥480で126%、ハクサイがkg¥42・キャベツがkg69でともに124%などの8品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥121で前年比57%、タマネギがkg¥108で59%、トマトがkg412で91%、ナスがkg¥414で93%など7品目となっている。バレイショとタマネギの値下りが大きい。

東京都中央卸売市場の12月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	125,446	102.0	108.6	238	99.2	103.9
た ま ね ぎ	9,500	106.2	106.5	108	59.0	104.9
キャベツ	13,335	95.3	93.7	69	123.7	85.2
はくさい	15,327	99.8	115.3	42	124.3	66.7
だいこん	10,979	101.9	101.1	66	110.8	89.2
にんじん	8,591	100.3	116.0	118	114.4	97.5
ばれいしょ	7,994	116.2	124.0	121	56.5	110.0
レタス	6,962	105.6	106.4	187	95.9	96.4
ね ぎ	6,013	105.6	117.0	292	112.2	109.0
ト マ ト	4,545	101.5	107.1	412	91.2	79.5
きゅうり	3,887	87.2	84.1	496	146.0	148.1
かぼちゃ	2,259	91.7	113.8	273	120.9	137.9
ながいも	794	92.1	129.5	355	117.5	108.2

れんこん	1,435	124.0	133.4	315	52.7	109.8
にんにく	238	106.7	120.8	849	76.4	96.9

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の12月の玉葱の入荷販売量は9,500トン前年比106%(前月比107%)。主力は北海物で入荷量は9,216トン前年比111%、占有率は97%で前年比4ポイントアップ。中國物は152トン前年比28%、占有率2%前年比4ポイントダウン。佐賀物は77トン前年比133%。総平均単価はkg¥108前年比59%(前月比105%)。産地別単価は、北海物はkg¥105前年比59%、中國物はkg¥140前年比117%、佐賀物はkg¥306前年比93%。となっている。

1月に入って、正月明けの市場では、仲卸の手持ち在庫が多く、市場内の荷動きは今ひとつであったが、周辺市場に入荷が少ないためか、転送需要が活発化し転送業者渡し、L大¥1850~1800、L¥2,000で捌けた。北海産地のJAからは、L大¥2,300~2,200の販売要請があるも、販売環境は対応出来る状況ではなかった。此処に来て24~25日の大寒波の影響により、休市明けの市場では、野菜の入荷は減少し、多くの品目が品薄高となった。玉葱は手持ち在庫があり保合または強含みであった。

1月5日~20日の玉葱の販売量は5,231トン前年比115%、北海物は大幅増となったが静岡物は予想を大きく下回った。総平均単価はkg¥121前年比64%。産地別では、北海物の販売量は4,798トン前年比125%、平均単価はkg¥108前年比58%。静岡物は306トン前年比80%、平均単価はkg

¥290前年比107%。中國物は80トン前年比28%、平均単価はkg¥144前年比119%。となっている。静岡の早生物の入荷は当初計画を20%以上下回った。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の12月の玉葱販売量は8,727トン前年比134%（前月比129%）で前年比、前月比とも大幅増であった。加工向けが順調な販売となったことも追い風になっている。メインは北海物で、前月に続き北海物の独壇場となっている。北海物は8,680トン前年比135%、占有率は99%で前年比1%アップ。中國物は38トン前年比43%。総平均単価はkg¥93前年比62%（前月比105%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥93前年比62%。中國物はkg¥143前年比124%。なっている。

正月明けも、北海物の荷動きには、大きな変化はなく保合相場が続いた。唯、産地からの直送品の着荷が平年より遅く、市場在庫は順調に減少した。産地JAからは、¥200程度の値上げ販売を要望されているが、末端の動きは今ひとつで、販売環境は厳しい。静岡物の入荷は予想より少なく、愛知物は隔日に少量の入荷がある。此処2、3日来、大寒波による輸送の乱れで北海物の入荷は減少する予想だが、応分の在庫を抱えており、品不足の心配はしていない。現在相場は、産地の要望を考慮して¥2,200～2,100で勉売している。此の先静岡、愛知物の入荷が増加する予想で、相場は徐々に軟化傾向になると見ている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の12月の玉葱の販売量は4,308トン前年比120%（前月比111%）で前年比、前月比とも2桁増となっている。銘柄品の兵庫の『淡路島たまねぎ』の冷蔵物は在庫減で大幅減となったものの、主力の北海

物が大幅増となった。産地別の販売量は、北海物が3,840トン前年比129%、占有率89%で前年比6ポイントアップ。兵庫物は444トン前年比76%、占有率10%で前年比6ポイントダウン。総平均単価はkg¥108前年比66%（前月比99%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥96で前年比64%、品薄の兵庫物はkg¥200で前年比87%。となっている。

1月に入ってから、市場の動きに変化なく凡調な取引が続いた。兵庫物も産地の価格要望が強く、上値～中値に勉売し強含みに誘導した。主力の北海物は直送品の入荷が少なく、産地の要望を考慮し強含みの販売を続けた。静岡物の入荷は予想外に少なく、主要仲卸に割り当て販売が続いた。昨今は大寒波の影響で入荷は少ないが、相場は品薄高になっていないものの、今後の輸送の乱れで、入荷減が続けば産地要請の値上げ相場となる可能性がある。

1月5日～20日の玉葱の販売量は2,271トン前年比163%、平均単価はkg¥118前年比58%。産地別では、北海物は1,925トン前年比185%、平均単価はkg¥102前年比56%。兵庫物は284トン前年比106%、平均単価はkg¥192前年比72%。静岡物は43トン前年比65%、平均単価はkg¥316前年比102%。愛知物は12トン前年比132%、平均単価はkg¥246前年比88%となっている。北海物の入荷は前年比大幅増だが、静岡物は大幅減となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、2,058トン前年比108%（前月比91%）で、前月に続き前年比増、前月比減となっている。主力は北海物で、販売量は1,890トン前年比119%、占有率92%前年比9ポイントアップ。中國物は132トン前年比47%、占有率6%前年比9ポイントダウン、香川物は15トン前年比61%。総平均単価はkg¥110前年比65%（前月比106%）で

前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥107前年比60%。中國物はkg ¥119前年比110%。香川物はkg ¥240前年比96%となっている。

1月に入って、北海物の直送品の入荷は中旬までなく、荷動きは回復傾向で、在庫も順調な消化が続いた。唯、年明けはLの引き合いが強く、在庫はL大が殆どでL大の売り込みに傾注することになった。相場は¥2,200に仕切っていたが産地からは更なる値上げ要望があり、対応に苦労した。昨今の北海物の荷動きはますますで、在庫も通常のランニングストックに減少している。今回の大寒波の影響で、当面は大幅な入荷減になりそうで、気を揉んでいる。長崎、佐賀の新物も顔見世程度の入荷で、売り先を集約して販売している。量的に増加するのは2月中旬以降になると見ている。

1月5日～20日の玉葱販売量は986トン前年比108%、平均単価はkg ¥120前年比67%、入荷は前年比8%増、価格は前年比33%安となっている。

1月26日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量294トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,600、L大 ¥2,200～1,700、L ¥2,000～1,600、
M ¥1,700～1,500。

【太田市場】 販売量312トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,300～2,100、L大 ¥2,400～2,100、L ¥2,300～2,100、
M ¥2,000～1,800。

静 岡 10kgDB2L ¥2,700～2,600、L ¥3,000～2,800、M ¥2,700～2,600。

愛 知 10kgDB2L ¥2,700～2,500、L ¥2,900～2,700、M ¥2,600～2,500。

【名古屋北部市場】 販売量294トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,100、L大 ¥2,200～2,100、 L ¥2,200～2,100、
M ¥2,100～2,000。

静 岡 10kgDB2L ¥2,600～2,400、L ¥3,000～2,800、 M ¥2,700～2,600。

【大阪本場】 販売量212トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,100～2,000、L大 ¥2,200～2,000、 L ¥2,100～2,000、
M ¥2,000～1,900。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,800～1,500、L ¥2,000～1,600、 M ¥1,800～1,500。

静 岡 10kgDB2L ¥2,700～2,600、L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,700。

【福岡市場】 販売量114トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,100、L大 ¥2,400～2,200、 L ¥2,400～2,200、
M ¥2,100～2,000。

長 崎 10kgDB2L ¥2,800～2,600、L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,600。

佐 賀 10kgDB2L ¥2,800～2,600、L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,600。

供給(産地)の動き

北海道産地の出荷の進捗率は、地域別・荷主別には多少のバラツキはあるものの、総じては順調とされている。ホクレンの生食向け越年販売計画数量は143,600トン前年比153%となっている。全玉連の1月18日の新春情報交換会では、1～4月の玉葱供給量は、379,730トン前年比118%と試算している。主な内訳は、北海物は流通段階の在庫を含み230,400トン前年比155%。輸入物は77,600トン前年比75%。国内産冷蔵物11,200トン、前年比117%。府県産の新物は60,000トン前年比120%と予想している。

北海道産地

産地ムードは昨年が続く春高相場を期待し、相応の在庫を抱え込んでいる処や、現状相場は平年比高の好水準で推移していることで、計画通りの出荷を推進している処もある。品質的には地域により、通常豊作年に見受けられる劣化傾向が進行している。傍目の感触では、越年在庫は予想されたよりも少ない感じがする。

府県産地

年明け早々から出荷が始まった静岡物は、冷え込みと雨不足の影響なのか球肥大が進まず、出荷は予想外に後ずれしている。1月の出回り量は前年比30%前後少ない。例年2月が本番となり、当初計画では前年比123%となっており、生産者の間では生育は平年比10日～1週間遅れていると話している。1月の出荷は抜き採りで、手数が掛かり出荷は増えないが、2月は総採りになるので、個々の生産者の出荷量が大幅に増えると聞いている。

静岡に続く、長崎、佐賀では一部で抜き採り出荷が始まっているが、生育は干ばつと冷え込みで平年比1週間程度遅れている。連続出荷は2月下旬になりそうだ。いずれの産地も人手不足で、手数の掛かる抜き採り出荷は見送られている。愛知の三河地区は少量ながら隔日出荷となり、品質は静岡物に比べ遜色ない。と評価されている。

輸入の動き

12月の輸入量は速報値で、19,535トン前年比75%。国別では、主力の中国が19,313トン前年比79%。アメリカが167トン前年比11%。オランダが54トン前年比600%となっている。

中国、現在の供給産地は甘肅省だが、既に終盤を迎えている。後続産地の雲南省産は、昨年の高値を反映して栽培面積は増加、生育状況は良好で平年

並みの収穫を見込んでいる。と報告されている。日本向けの出荷は、3月後半からの予想。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉が\$15.00、皮付きが\$10.00で前月と同水準である。

ニュージーランド、主産地のブケコへの作付は前年並みだが、ホークスベイでは播種期に降雨に阻まれ播種が出来ず6%前後の減反になっていると言われている。昨今、欧州地域が品薄で、輸出は欧州に軸足が向いている。日本側では今シーズンの契約は高値のため見送られている。現在の日本向けオファー価格は、20kg・C&F・¥2,400の高値となっている。加工向けとしては北海物に比べ¥1,000程度高い。

輸出の動き

北海物の輸出は、昨年9月～今年1月半ばまでで18,302トン。輸出先は、台湾向け15,876トン、韓国向け2,426トンとなっている。当初計画より8,000トン多い。

2月の市況見通し

2月の市場は、北海物主力となるものの、順次府県の新物が増加する。通常立春には先行き見通しが占えと言われるが、今年は、コロナ禍の感染や異常寒波の到来等の影響や、ロシアのウクライナ侵攻による物価高で、見通しが建て辛い。玉葱相場は、高値が今までになく長期間続いたことで、高値悩み現象が起きている。私見では、此の先の玉葱市況は、じり高になる可能性は低く、横這い亦はじり貧になる可能性が高い。特に、府県の新物は2月後半からは軟化傾向に、北海物は、月前半は保合。後半は輸入物の減少と産地の値上げ要請で強保合と予想している。要はホクレンの販売姿勢で変動する。(笹野敏和記)